

授業科目	国際社会と政治			担当	水本 和実	
				研究室	非常勤講師	
開講年次	1	セメスター	2	時間数 (単位数)	30 (2)	必修/選択
						選択
						開講最低人数
						1人
授業の目的及びねらい						
国際社会が現在直面している諸問題を、政治や歴史、文化、宗教など多角的な視点から取り上げます。その際、国際社会で「平和」をいかに創り出していくか、ということ念頭におき、保健・医療従事者の活動の意義、日本や広島の実すべき役割についても考えたいと思います。授業概要は目安であり、進行状況に沿って調整します。						
講義回数	主な授業内容					
第1回	ガイダンス・「国際社会」の多様性・冷戦終結後の国際構造と紛争・対立要因 講義の趣旨説明・「国際社会」とは何か・冷戦後の国際構造と「文明の衝突」論					
第2回	イスラム社会と文化（その1） 日本人に最もなじみの薄いイスラム教について学ぶ					
第3回	イスラム社会と文化（その2） アメリカの「対テロ戦争」以降、誤解されつつあるイスラム圏の社会と文化について学ぶ					
第4回	中東の社会と政治 ホロコーストとイスラエル建国、パレスチナ紛争など中東問題の背景や現状を学ぶ					
第5回	韓国・朝鮮の社会と歴史（その1） 古代から江戸時代までの日本と朝鮮半島の関係について学ぶ					
第6回	韓国・朝鮮の社会と歴史（その2） 明治以降今日までの日本と朝鮮半島の関係および日本のコリア社会について学ぶ					
第7回	南アジアの社会と歴史（その1） ヒンズー教に代表される南アジアの文化や歴史を学ぶ。中間レポート提出。					
第8回	南アジアの社会と歴史（その2） 英領インド連邦が宗教によりインドとパキスタンに分かれて独立した経緯を学ぶ					
第9回	東南アジアの社会と政治 カンボジアの内戦と復興を中心にインドシナの紛争・対立について学ぶ					
第10回	米国の歴史と社会、政治 日本に最も影響を与えている核超大国アメリカについて学ぶ					
第11回	原爆・核兵器について（その1） 米国の原爆開発および広島・長崎への原爆投下をめぐる諸問題について学ぶ					
第12回	原爆・核兵器について（その2） 原爆投下をめぐる日米アジアの見方の違い、戦後の核軍拡・核軍縮について学ぶ					
第13回	生物・化学兵器・劣化ウラン兵器について 大量破壊兵器の危険性および大久野島の毒ガス製造の歴史について学ぶ					
第14回	広島と平和について 被爆体験を持つ広島が求められているこれからの平和貢献のあり方について学ぶ。期末レポート提出。					
第15回	まとめ 国際社会のあるべき姿を、政治、歴史、文化、宗教からあらためて考える。					
必須文献、参考文献等						
必須文献：テキスト等は使いません。講義資料は毎回、準備します。 参考文献：毎回の講義で適宜、指示します。						
評価の方法						
期末レポート(50%)、中間レポート(20%)、出席および講義での積極性(30%)で評価します。レポート内容は講義で指示します。						
受講生へのメッセージ						
講義では、ほぼ毎回ビデオを用いながら、具体的に学びます。知識を詰め込み記憶することが目的ではなく、いかに問題意識を磨くかに重点を置きます。						